

金沢市立明成小学校

【はじめに】

本校は、金沢駅近くに位置し、平成7年4月に旧瓢箪町小学校と旧此花町小学校が統合して開校した。全校児童は259名(5月1日現在)、職員は31名である。

学校の北側には浅野川が流れ、西側には大きな境内をもつ安江八幡宮や東別院、西別院の他、由緒ある寺社が数多くある。そのため、四季を通じて子ども達が自然を目にする事が出来る。また、ふらっと通りや安江町商店街など歴史と伝統を重んじながらも新しい感覚を取り入れた店舗が軒を連ねる商店街があり、地域の方々は郷土愛に満ちている。

2011年度にユネスコスクールの認定を受け、環境や文化、福祉、国際理解などをテーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

たくさんの絆をつなごう！

1 ユネスコスクールとしての取組

・1年生「きせつとなかよし」

春から秋にかけて一人一鉢でアサガオを大切に育てた。花が咲くとたたき染めや色水遊びをしたり、秋になるとつるでリースを作ったりして楽しんだ。種から育てた草花が季節で変化していく様子を観察し他の草花にも関心を持つことができた。



2学期は秋見つけに近隣の公園に出かけ、色々な秋の自然物を見つけた。見



つけた秋の自然物で「あきのありがとうまつり」を計画し、自分たちが楽しみながら様々な遊びを考えました。友達に楽しんでもらうためにアドバイスやいいところを出し合い、グループで工夫しながら取り組むことができた。秋祭りには2年生を招待し、人に楽しんでもらえた満足感を味わうことができた。また、春から栽培していたさつまいもを収穫し、ふかしいもにして食べたり、小芋でいもぼんをして遊んだりして秋を満喫して楽しむことができた。

・2年生「町をたんけん大発見」

1学期には、自分たちの町を探検して、自然(彦三緑地の樹齢400年の大木)・お店(お寿司屋や床屋、たこ焼き屋)・名所(東別院や安江八幡宮)などに会い、地域へのつながりを感じ、愛着をより深めることができた。また、2学期には、地域に住んでいる方々との交流活動を行い、公民館と学校で交流会をひらいた。最初は公民館で地域の方と一緒に「ミニステンドグラス」を作成した。子どもたちは、公民館で同じ机にすわった地域の方と一緒に、創作活動に取り組んだ。



その後、地域の方々を学校へお招きし、交流会を行った。子どもたちで企画・運営し、司会進行も務めた。地域の方々と楽しく仲良く関わるにはどうしたらよいかを考えて、生活科で作成したおもてなしカードをプレゼントし、音楽で学習した合奏唱を披露したり地域の方と合唱したりした。交流会を通して、地域のあたたかさに気づき、明成校区の良さを改めて実感することができた。

・3年生「金沢の伝統を学ぼう」

1学期は、氷室の日を取り上げ金沢の伝統行事に目を向けた。同時に氷室まんじゅうを食べ、金沢に根付く和菓子文化を調べた後、和菓子作り体験をした。2学期には、地域に伝わる獅子舞について詳しく調べた。2月には学習発表会として、獅子舞の歴史や道具、舞い方などについて全校や地域の方に発信することが



できた。3学期は和菓子文化と結びつく『茶道』について、校区にお住まいの先生をお招きして茶道体験をした。本校にある明成の間という茶室で、礼儀や作法についても教えていただき、金沢の伝統文化を強く印象付けることとなった。

・4年生 MHP「魅力発見プロジェクト ～ひょうたん・伝統工芸・金沢の偉人」



1学期には、ヒョウタンを育てながら、本やインターネットでヒョウタンについて調べたり、地域のボランティアの方からたくさん教えていただいたりして、「ひょうたん壁新聞」にまとめることができた。育ったヒョウタンの実は、飾りやおもちゃ等の作品に仕上げた。2学期には、金箔はり体験や地域の加澤美照工房さんのご協力で加賀象嵌体験を行った。児童は職人さんの技に驚き、金沢が誇る伝統工芸品の美しさに魅了されていた。学んだことを「リーフレット」にまとめ、全校集会でも、ひょうたん、金箔、加賀象嵌の3つについて、スライドや劇、クイズを織り交ぜながら分かりやすく発表することができた。3学期には、金沢の偉人について「研究レポート」にまとめた。金沢には、すばらしい功績を残したたくさんの偉人がいることに児童は驚いていた。MHP「魅力発見プロジェクト」を通して、金沢の魅力を自分で発見するだけでなく、感じたすばらしさを全校に広めることができた。

・5年生「広げよう ボランティアの輪を」

「みんなの中で身近なボランティアといえど？」と問いかけたところ、図書ボランティアと学校安全ボランティアの方の名前が挙がった。図書ボランティアは、月に1回朝自習の時間に本の読み聞かせをしてくださり、学校安全ボランティアは、毎日の登下校の安全を見守ってくださっている方々である。その方々にいろいろなことをインタビューして、新聞としてまとめた。

そして、身近にボランティアをしている方が多くいることを知った後、自分たちにできることがないか考え、ボランティアを实践した。身近なボランティアのことを調べ考えることで、これからの自分の生き方に少しでも影響を与えるものになったのではないかと思われた。

・6年生「明成のよさを発信しよう」

明成校区には、加賀毛針、加賀象嵌、桐工芸など伝統工芸の店がいくつかある。また、駅前という立地から新幹線開業以来、観光客も多くなり、近江町市場、別院通りや横安江町の商店街も活性化してきている。そこで、校区の良さを再発見しよう、より多くの人に発信しようと、子ども達はそれぞれ自分のお薦めの場所の取材を重ねレポートにまとめた。子ども達は、地域の方と取材を通してふれあう中で、場所やものの良さだけでなく、取材を受けて下さった方々の素敵さを感じていた。子ども達が作成したレポートは、学校のホームページで公開する予定である。



2 成果と課題

各学年とも生活科や総合的な学習の時間を中心として、各教科での学びにつなげたり、広めたりしながら活動を進めていった。その結果、体験しながら学びを積み重ねることができ、人や地域とのつながりを深めることができた。今年度も中学年では、活動の内容を全校に伝える場を持つことができた。さらに、地域の伝統工芸を学ぶことで、学びを実感し、身近に感じることも成果といえる。また、各学年の取り組みを掲示することで、年間の見通しを持ったり学年間の交流をはかったりすることができた。

今後の課題として、学校全体としての取り組みのさらなる共有化や人材の発掘、他校との交流、時数の確保などがある。また、各学年での取り組みを交流する場の設定について、検討している。

今後も他教科との関連をより一層深め、学びの力を伸ばしていきたいと考えている。